

7月22日の日食情報

Vol.1 ～ 46年ぶりに日本で見える皆既日食 ～

7月22日は、皆既日食が起こります。皆既日食は、太陽―月―地球が一直線に並ぶとき、地球から見て月が太陽をすっぽりと隠してしまう現象です。数分間しか続かないこの現象ですが、昼間にも関わらず、明るい星が見えるほど空が暗くなります。太陽のまわりには美しい「コロナ」が輝くのが肉眼でも見られ、また双眼鏡や望遠鏡では赤いプロミネンスが見られます。そして、皆既日食が終わるときには、黒い月の縁から太陽の光がこぼれだし、「ダイヤモンドリング」と呼ばれるような美しい光景が見られます。

そんな皆既日食は、地球全体で見ると意外に多く、2年に1度くらいは起こっています。しかし、見られる地域は、月の影が地球に届いてできる細長い地域(皆既食帯と言います)に限られてしまいます。そのため日本で見られる回数は、数十年に一度という珍しい現象です。実際、日本の陸地で見られる皆既日食としては、北海道東部で見られた1963年7月21日以来、実に46年ぶりです。

●2009年7月22日の皆既日食が見られる地域

この皆既日食は、世界的にはインド、ネパール、バングラデシュ、ブータン、ミャンマー、中国などの一部で見られます。日本国内では、口永良部島、屋久島、トカラ列島の島々、喜界島、奄美大島の一部、種子島の一部などを皆既日食帯が通過しています(右図)。この狭い地域の中でしか、皆既日食は見られないのです。

皆既日食が見られるトカラ列島がある十島村は、人口わずか600人余り。このため、たくさんの観測者が殺到すると、村民のみなさんの生活も脅かされてしまいます。それでも多くの人にこの「世紀の天文現象」を見てもらおうと、抽選による日食観測ツアーが組まれています。

このほかでは、海上での観測に出かける船による観測ツアーや、中国の上海付近で観測する海外の観測ツアーなどが旅行社によって計画されています。

ちなみに、太陽の一部が欠ける部分日食は、日本全国どこからでも観測できます。ここ府中市郷土の森でも、約75%まで欠けた太陽となり、郷土の森22年間の歴史の中で最も欠ける日食です。次回は各地の部分日食の状況について、ご説明します。

